

作品ID	書名	内容	所有	出版社
123	病みたる秘剣	強盗から金を受け取り、目こぼしをしてしまった浜吉親分。そのために御用聞をお役御免となり、百叩きの刑にあって、5年の所払いで江戸を逐われた。年期があけて江戸にもどった浜吉は、風車を作って生計をたてるが、昔鳴らした腕の冴え、捕物の虫はおさまらない。幼なじみの喜助親分の配下留造に知恵をさずけ、難事件を見事に解決。連作短編12編。		新潮文庫
124	隠し金の絵図	凄腕の御用聞・風車の浜吉が、新規蒔直しを凶って昔懐かしい根津の地へ戻って来た。ゆえあって、風車売りに身をやつし、小石川白壁町で世を忍んでいた浜吉だったが、補物の腕を惜しまれ、とうとうまた表立ってお上御用を勤めることになったのだ。鳴りを潜めていた粋な義賦・つばくろからの暗号めいた遺書が届けられ、風流な宝さがしが始まる表題作など、浜吉親分活躍の連作9話。		新潮文庫
125	月夜駕籠	口癖の、風車の親分こと御用聞の浜吉。今日も小石川伝通院で風車を売っていると、難事件の解決依頼が舞い込んでくる。月夜になると娘をさらう駕籠の謎を負う表題作、八ぜ釣りの客が釣った銀のかんざしから、かどわかされたご新造の行方をつかむ「かんざし釣り」など、推理と人情で謎を解く捕物9話。お縄にしたあとの計らいも粋な、シリーズ3作目。		新潮文庫
